

大谷ををたには本願寺ほんぐわんじの廟所なり、当山初めは智恩院ちおんゐんの境地にして、寺中崇泰院そうたいゐんにその遺跡あり。慶長年中に此ところうつし、則旧号を取て大谷ををたにと称す。当寺開山親鸞聖人しんらんしやうにんの伝記に曰、東山西麓、鳥部野とりべのの南辺、延仁寺えんにんじに奉<sub>レ</sub>葬、この由縁をもつてこゝに遷と見えたり。阿弥陀堂西面にして、堂内に龍谷山りうこくざんといふ額あり。「寂如上人じやくにょの筆なり」廟所はその東にあり、明著堂めいちよだうの額あり。「同上人の筆なり」対面所の庭上南のかたに石蔵あり、当寺の什宝を蔵むる所となり、俗にこれを窟といふ。「大谷ををたにより清水きよみづへいたる細道を延仁寺えんにんじ辻子つしといふ」